



イチジクの花はどこに？

8月27日、目久尻川小園橋近くの畑の中で、イチジクの実を発見しました。花は見当たりません。イチジクは漢字で書くと「無花果」、つまり花が無い果物で、花は実の中で咲いています。実を縦半分に割って断面を見ると、白い果肉の中に赤いプチプチした粒があります。これがイチジクの花の跡に当たります。 【高橋 元】



華やかな色合い

8月31日、陽だまり公園で、シルバー人材センターの方に話を聞きました。花の種類の多さから、同公園では1年中四季の花が咲いているそうです。取材時はコキア、センニチコウ、キバナコスモス、ケイトウなどが咲いていました。キバナコスモスの花言葉は「野性的な美しさ」で、夏の暑さに強いそうです。 【篠塚 常夫】



夏なのに初雪？

8月31日、早川城山の住宅街の道端で、とても爽やかに咲いている植物を見つけました。同日の新聞に掲載されていた珍しいハツユキノソウを思い出して、ちよつと興奮気味にシャッターを切りました。夏の植物ですが葉は白く、雪がうっすら積もったように見える涼しげな姿が特徴的です。花はとても小さく目立たないため、葉を觀賞して楽しむのがハツユキノソウのようです。 【馬場 正勝】



マダガスカルジャスミンの実

落合南の長谷部さんの家の庭先で、マダガスカルジャスミンが大きな実を付けていました。実が付いて大きくなることは、とても珍しいそうです。ジャスミンに香りが似ていますが別種で、花と香りを楽しむ花です。毒性が非常に強く、実や葉の取り扱いには十分な注意が必要です。

【情報提供：綾瀬写真協会
古山 豊さん】



目久尻川の太公望

9月2日、初秋の目久尻川で太公望と出会いました。太公望とは、釣りをする人、釣りが好きな人を指す言葉です。狙う獲物は5月に遡上し大きく成長したアユです。古矢橋近くの急流には、大きな魚影が光っていました。春からアユを追いかけているという太公望が仕掛けを下ろしたのは、流れの急な深瀬のポイント。狙いは当たり、体長24cmの大物を釣り上げました。 【秋元 謙治】



秋の盛りの栗畑

9月19日、散策中に市役所近くの栗畑に秋の盛りを見つけました。いがの裂け目から栗の実が今にもこぼれ落ちそうでした。松尾芭蕉も、このような栗の様子を「行く秋や 手を広げたる 栗の毬」と詠んでいます。 【秋元 謙治】